

年金者部会ニュース

滋賀銀行
従業員組合
年金者部会
TEL077-521-2775
FAX077-525-5232

2016年 滋賀銀従組・年金者部会・さざなみネット『合同旗びらき』 「生活と権利そして命」を守り、職場を守り、 取引先を守る闘いへ持てる力を出し切りがんばろう

1月14日、大津市内に於いて滋賀銀行従業員組合、年金者部会世話人とさざなみネット分会委員の合同「旗びらき」が開催されました。

「旗びらき」

め挨拶されました。

は、従組車谷副委員長の司会で始められ、最初に、中島従業員組合委員長が情勢に触れながら、当面する春闘への決意を込めて挨拶されました。次に、年金者部会の和田部会長が挨拶。和田部会長は、「年が明け、安倍首相は4日の年頭記者会見、国会の代表質問や報道番組をみると夏の参院選で憲法改正のための議員数獲得のために意欲を示しています。我々は野党共闘実現のために



中島康隆委員長 挨拶(要旨)



新年あけましておめでとうございませう。安倍首相は、「デフレ脱却」のために打ち出したアベノミクスが第1ステージから第2ステージ

に入ってしまったとして「新3本の矢」を打ち出しました。しかし、当初の「3本の矢」は、一部の大企業や富裕層だけに恩恵をもたらさず、多くの国民には消費税や円安で原料価格の高騰となり負担がしわ寄せされています。また、「新3本の矢」は、当初の「3本の矢」から2本が抜け落ちるなど表明後直ちに効果に疑問の声があがっています。

一方、大企業は史上空前の利益を上げ、内部留保は300兆円に達しています。このことから見ても賃上げができないはずがありません。

昨年は「安保関連法」採決に反対して多くの国民から民意が示され、日本各地で大きな運動がおこりました。日本の景気回復には、「大企業の内部留保増大」ではなく、内需拡大、「国内消費の増大」が必要だと考えます。昨年は、地方銀行でも春闘で賃上げするところが増加しました。

日本の景気回復に加え、労働者の生活といのちを守るためにも、ぜひ2016春闘は多くの職場の仲間と大いに語り、大いに奮闘したいと思っております。

意見を自分の声で発言しかけています。私たちも、その一員として持てる力を出し切りがんばりましょう」

と挨拶されました。つづいて、倉見栄一年金者部会世話人の発声で乾杯を行いました。懇親会に移りました。

閉会の挨拶は、さざなみネット山崎書記長が「新しい年も現職組合員と組合卒業組が力を合わせて頑張ろう」と締めくくられました。

話は変わりますが、地域では、滋賀銀行の行動をよく見ておられる。例えば、『預金金利がほとんどない時期に、銀行は儲けだけを追求するのではなく地域県民に、もっと還元することを考えるべきだ』『スローガンの言っているが、客へのサービス精神を忘れていくように見える』など。また、取引先からの要望は

『地域住民の心底から頼れる銀行になって欲しい』『本当に困った時に、助けてもらえるのだろうか。信頼できない』『特に地域金融機関としての役割を果たせ』などよく聞きます。

これからも議論をすすめていく闘いの道は、自分自身の労働条件「生活と権利そして命」を守り、取引先を守る闘いへの道だと思えます。自分たちは一人ではない。全国で若者やママたち、年齢を問わず多くの人達が自分の

物価上昇にもかかわらず 公的年金支給額を据え置き 高齢者の家計を直撃

厚生労働省は1月29日、2016年度の公的年金支給額を15年度と同額に据え置く」と発表しました。物価上昇にもかかわらず据え置くもので、年金だけで暮らす我々高齢者の家計を直撃するものです。

年金給付の伸びを物価・賃金の伸びより約1%程度低く抑える「マクロ経済スライド」

は発動されません。年金は物価や賃金に連動して毎年度改定されます。15年度は物価変動率が0・8%の上昇でしたが名目手取り賃金変動率がマイナス0・2%でした。物価が上がっても賃金が下がった場合は据え置くルールになっているとして、物価上昇にもかかわらず引き上げ

ボランティアでガイドを始めてから11年が過ぎ100組以上の方達と楽しい時間を過ごしてきました。

今まで知らなかった様なちいさな国の人達とも出会いを喜び合い、「おもてなし」の心を大事に、下手な英語ですが観光地を案内したり、日本の文化を

私の近況 ⑪ 和田 信子

紹介したりしています。「日本は平和で長い歴史を持つ美しい国、食べ物がおいしい国」という人が多いです。憲法9条は世界に誇れる法律だと皆さんが良く言われます。あと少し、体力が続く限り頑張ってみようと思います。



を見送ります。

マクロ経済スライドは発動されません。

一方、15年度に初めて発動された年金のマクロ経済スライドは支給額がプラス改定の場合に発動するルールのため、16年度は発動できなくなりました。今回、プラス改定になっ

本当の積極的平和主義を取り返そう —第25回県高齢者大会—

アーサー・ビナード講演より

アメリカが中東イラクに軍事介入した時、日本では自衛隊の海外派遣が憲法違反かどうか国会で議論になり感動した。日本には平和憲法があり湾岸戦争に加担しなかった。アメリカでは何時の間にか合衆国憲法の生血が抜かれミイラにされていて憲法が戦争の歯止めにならない。

アメリカ

国家安全保障法で何時でも戦争できる国に

真珠湾攻撃までは憲法が歯止めになっていた。大統領や軍産複合体は戦争がしたかったが、国民がなびかないと出

ていれば、0・7%削減する予定でした。

厚労省は、この発動ルールを見直し、実施できなかった「抑制分」を翌年度以降に持ち越し、物価上昇時にまとめて実施する「物価スライド停止法案」を今国会に提出しようとしています。

(しんぶん赤旗・1月30日号より)

積極的平和と消極的平和

Peaceには積極的平和と消極的平和がある。どこかで進行している戦争を知らずにいられるつかの間の優雅な

無知の状態を消極的平和という。積極的平和とは、経済や政治、あらゆる分野で次の戦争が出来ないようにすることである。

集団的自衛権は日本の自衛隊がアメリカ国防省の下請けになることだが、それを隠すために「積極的平和主義」と言い換え、安倍政権は真逆の意味で言葉を使い始めた。

僕らは、本当の積極的平和の意味を取り返さないと日本国憲法を生かすことはできない。このまま黙っていることわけにはいかない。

日本国憲法が押し付けだと言う人達は憲法のことを何もわかってない。日本に限らず世界のどの国の憲法もみな押し付けであり他国の憲法のパクリで舶来品だ。世界中の英知を集めその国と時代に合ったように使っている。(年金滋賀第309号より転載)

編集後記

「私の近況」欄を本号から裏面左上面に固定することにしました。部会員の皆さん、投稿をお待ちしています。